

かりふ新聞

発行
社会福祉法人
協立いつくしみの会
 札幌市厚別区厚別中央5条6丁目5-20
 TEL(011)896-1165 FAX894-4404
 E-mail:itukusimi@karipu.jp
 2016年10月1日発行
 発行責任者 河原 政勝

決して容易ではない世界平和 視野広げ地道に努力したい

原水爆禁止2016年世界大会 広島

8月4日から6日にかけて開催された「原水爆禁止2016年世界大会」に広島から多くの皆さまが参加されました。全国各地から多くの方々が集い、それぞれの地域で取り組まれてきた平和運動の報告や、政府代表・海外代表からの報告、被爆者の方々からの体験談などが聞けました。人類初の原爆を投下された日本は、決して容易ではない平和な世界の実現に向けて重要な存在であるということ、参加者全員で自覚し団結できた世界大会でした。視野を広げて世界を見つめ、今後自分ができることを地道に努力していきたく思います。

爆者の方々からの体験談などが聞けました。人類初の原爆を投下された日本は、決して容易ではない平和な世界の実現に向けて重要な存在であるということ、参加者全員で自覚し団結できた世界大会でした。視野を広げて世界を見つめ、今後自分ができることを地道に努力していきたく思います。

（施設ケア科 鷲谷 涼夏）



かりふ新聞の創刊にあたって

社会福祉法人協立いつくしみの会 理事長 石山 建治

日頃より、当法人事業へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。創立以来、会報「朱の輪」の発行をおこなってきました。前号で73号を数えるに至っています。



「朱の輪」という名称は、新聞のコラムとして残してまいります。が、新聞名をより皆様に親しまれている呼

び名である「かりふ」（アイヌ語で輪の意）に改名し、新しく出発いたします。

介護や福祉をめぐる情勢や改善を求める運動、事業活動や福祉・防災のまちづくり、健康友の会や町内会との共同のとりくみなど、様々な活動や交流の「輪」になれるよう、皆様のご意見もいただき、豊かな紙面づくりを進めてまいります。よろしくお願い致します。

みんなが元気 地域へ広がれ かりふ祭

第23回

かりふまつり



9月4日に第23回かりふまつりを開催しました。利用者や入居者の方々、地域住民の方々を含め、約400人の来場で大盛況となりました。今年も、介護予防相談コーナーを設け、口腔体操などを行ったり、介護に関する相談や要望を受け付けたりと、皆様のお役に立てたのではないのでしょうか。



ステージ演目は、迫力のある太鼓の演奏やYOSAKOI、華やかなフラダンスと、観覧していた方も楽しめました。来年もボランティアの方や健康友の会員の皆様と職員の協力のもと、この地域で暮らす方々に笑顔をお届けできるような、元気で「かりふ」らしいお祭りを開催しますので、一年後を楽しみにお待ちしております。



無差別平等の地域包括ケアをめざして

秋の月間 スタート集会開催

9月1日、毎年恒例の「秋の月間スタート集会」がもみじ台内科診療所待合室で行われました。安心して暮らせるまちづくりを目指して、厚別健康友の会、もみじ台内科、もみじ台歯科、かりぶ・あつべつが一緒に、地域訪問や友の会員の拡大にとりくみます。道央圏でトップをきいて行われたスタート集会には22名が参加し、情勢学習と秋のとりくみの目的、行動を確認しました。厚別健康友の会村主任

会長は、国保料の引下げのとりくみ、無料定額診療の広がり、介護では制度見直しで様々な困難に直面していることなど、生活にかかわる身近な所で問題が起きていることを取上げ、地域と一緒にやっていくことの大切さを話しました。この秋、民医連の目指す無差別平等の地域包括ケアを実践するために、学習・訪問行動など友の会と共にとりくみましょう。(法人事務局 橋本)

地域の皆さんや健康友の会の皆さんとともに

力を合わせて、しっかり学び、しっかりたたかう秋にしよう



厚生労働省の2017年度予算の概算要求が発表された。過去最大の31兆1217億円。高齢化が進むことによる社会保障費の自然増は6400億円であるにも関わらず、財務省からは最終的な増加額を5000億円程度に抑えることが要求されている。年末の予算編成の焦点が、社会保障費の抑制というわけだ。

昨年6月に閣議決定した「骨太の方針」は、今年度から18年度までの3年間で計1.5兆円に抑える「目安」が盛り込まれている。単純に割り算すると、毎年5000億円ずつに抑える必要がある。昨年概算要求では約6700億円だった自然増の見込みが、最終的に4997億円に絞り込まれた。

これを医療の診療報酬の引き下げによって、▲1.03%で抑え込んだが、来年度予算では診療報酬改定など大きな制度改正がない。では、「目安」を超える1400億円を、どのように削減するのかというと、現在、

社会保障審議会ですべての介護保険制度のさらなる改悪によっておこなおうとしているということである。利用者や家族、介護労働者、介護事業者に深刻な打撃を与えた昨年の介護保険制度と介護報酬の大幅引下げの検証も反省もなしに、である。具体的には、財務省の将来像に沿って、①要介護1・2の買い物などの生活援助の原則自己負担化(一部補助)、つまり保険対象から外すことや、②軽度者の福祉用具・

住宅改修の原則自己負担化(一部補助)、③介護予防・日常生活支援総合事業の対象サービスの拡大(通所介護など)、④65〜74歳の利用料を原則2割に引き上げること、⑤事業所に対する締め付けや「適正化」対策の強化、⑥介護保険の療養病床の全面廃止による受け皿づくり、そして、⑦収入が高い大企業のサラリーマンなどの保険料負担を増やす「総報酬割り」の導入など、介護サービスの抑制や負担増などで財源を捻出する狙いである。厚労省幹部は「(来年度)削減できなかった額が18年度に持ち越されることも想定している」としているとのことであり、18年度に予定されている診療報酬と介護報酬の同時改定や生活保護法

改正などで、報酬切り下げや生活保護基準の見直しを選択肢として浮上している。一方、防衛省の17年度概算要求は、米軍再編関連経費を含め、過去最大の総額5兆1685億円を計上。16年度当初予算比2.3%増である。さらに、国民には消費税増税をおしつける一方で、大企業には法人税率の引下げで大減税ばらまきの計画を推進している。ふ

たたび「増税不況」を引き起こすことになるのは必至。いずれもが、国民へのしわ寄せとして押し寄せてくることに。安倍政権の暴走政治にストップをかけ、憲法を守り、くらしと平和、社会保障・社会福祉を、地域の皆さんや健康友の会の皆さんとともに、学習・宣伝・訪問・署名行動を、力を合わせてすすめて、しっかり学び、しっかりたたかう秋にしよう。

毎月15日「介護お気軽相談会」

かりぶ・あつべつでは、毎月15日午前10時〜12時までビックハウスイースト店(厚別区厚別中央2条2丁目2-6)にて、「介護お気軽相談会」を定期開催しています。厚別区生活と健康を守る会と合同で行っています。「もう5年以上も検診を受けていないがどうしたらいいのかかわからない」「高齢者住宅には入らず自宅での生活を続けることは決めたが、何か困ったときにどうしたらいいのかかわからなくて相談に来てみた」「老人クラブに入っていたが嫌になって行かなくなりました。これから何をしたらいいのか、どうしたらいいのかかわからない」など相談内容は、介護や



介護予防のことだけではなく医療や認知症、地域での生活に関することまで様々です。介護保険制度の改悪をはじめ相次ぐ社会保障制度の改悪により、地域で安心して住み続けていくことがますます大変になっていきます。毎月定期に開催していきますので、お気軽にお立ち寄りください。

寄附者一覧

2016年5月24日～2016年8月31日

- 寄附金**
鈴木 のぶ子
土屋 秀子
- 物品**
奈良 和文
伊藤 昭
西村 静子
公益社団法人北海道勤労者医療協会
理事長 堀毛 清史
山岸 久美

(敬称略)

いつでも、どこでも、誰もが、安心して暮らし続けられるまちづくりを一緒にすすめましょう。

社会福祉法人 協立いつくしみの会
理事長 石山 建治

- 特別養護老人ホーム かりぶ・あつべつ
〒004-0055 厚別区厚別中央5条6丁目5-20 (☎011-896-1165)
(併設事業所)
指定居宅介護支援事業所かりぶ
短期入所生活介護かりぶ・あつべつ
デイサービスセンターかりぶ
訪問看護ステーションかりぶ
高齢者支援ハウス えみな
札幌市厚別区介護予防センター厚別中央・青葉 (☎011-896-1475)
- ケアセンター かりぶ・もみじ台
〒004-0013 厚別区もみじ台西3丁目1-8
指定居宅介護支援事業所メイプルかりぶ (☎011-899-7722)
ショートステイメイプルハウス
デイサービスもみじの家(認知症対応型)
ヘルパーステーションかえで (☎011-899-2525)
〒004-0013 厚別区もみじ台西6丁目1-4もみじ台内科2F
- ケアセンター かりぶ・上野幌
〒004-0031 厚別区上野幌1条2丁目2-30
サービス付高齢者向け住宅ぼるか (☎011-890-8787)
小規模多機能ホームかりぶ
デイサービスのの

E-mail : itukusimi@karipu.jp

かりぶ・あつべつ 検索